

福祉のまちづくり [福岡市]

ここにひとあり

特定非営利活動法人
新聞環境システム研究所

理事 加来 睦博さん

通信会社で技術職、営業職を経験後、'01年11月「NPO新聞環境システム研究所」を設立。新聞リサイクル活動「歩く森」の事業を中心に、資源銀行システム、CO2削減評価システムの開発・普及、循環紙製品の開発・販売に取り組む。



住民参加による

環境保全活動

スーパーの入口近くに、長机と体重計が置かれ、「新聞古紙30kgにつきバス・地下鉄・JR 80円割引」のポスターが貼られ、準備完了。携帯電話一つを手に、ニコニコと待つ加来さんののもとに、新聞紙の束を抱えた市民が次々と集まります。

「加来さんと話すのが楽しみで、欠かさず来ます」という主婦。「近所からも頼まれて」と台車を押しってくる親子。地域情報をひとしきり語っていく老紳士…。回収スポットには、温かい対話と笑顔があふれます。新聞を持参する住民は「歩く森」と呼ばれ、買い物ついでに徒歩で持ってきてくれるので、車両回収と比べ格段にコストとCO2排出が削減されます。(県内15ヶ所で展開。詳細は下記公式サイト)。

「資源銀行」・ 「地域通貨ペパ」の 優れたシステム

新聞束は体重計に乗せられ、その重量が携帯から同会の「資源銀行」に逐次送信。1kgあたり1ペパが顧客ごとに貯蓄。30ペパ貯まると希望時に「地域通貨チケット」として発行され、乗車券の80円割引券として使えます。公共交通機関を使うので、CO2削減にも二重に貢献できます。

「活動は口コミで広がるのでチラシ配布はしません。紙を集め資源を大切にしている活動だから」と語る加来さんの徹底した環境保全の意識は、接する人達の意識も高めます。

また、研究所が考案した新聞古紙と糊だけで作るオシャレな「ペパバッグ」は、県のウェブサイトに「アジアンビート」(*2)から海外にも発信され、「ものを大事にする日本文化の現れ」と大反響を呼びました。アクロス内国際交流ひろばやHPからも購入可。

活動にかける思い

加来さんが活動に関わったのは、莫大な税金がごみ焼却に使われていることと、身近な資源への個人の環境意識の低さを知ったことからです。

現在の川上理事長らとともに住民還元型の活動を展開して8年目。楽な運営ではないながら「楽しく乗り切ってますよ」と誇りとやりがいを持って活動している笑顔がとても印象的でした。

(文：田中／写真：西田)



original eco style and culture

海外の人にも人気のペパバッグ



(*1)地域通貨…法定通貨ではないが、ある目的や地域のコミュニティ内などで、法定貨幣と同等の価値あるいは全く異なる価値があるものとして発行され使用される貨幣。

(*2)「アジアンビート」 <http://asianbeat.com/ja/index.html>

問合せ先

特定非営利活動法人
新聞環境システム研究所

理事長 川上 義光

〒813-0043福岡市東区名島3-6-2-202

TEL:092-662-2226 FAX:092-661-2022

E-mail info@pepa.jp

<http://www.pepa.jp>

地域通貨30ペパが
80円分の乗車券に



古紙回収で集まった新聞の山